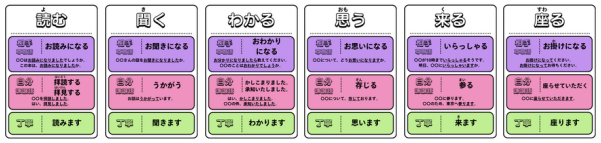


概要

KEI-GO! は、適切な敬語の使い方を学びながら、自分のロールを推理する、会話型パーティーゲームです。
それぞれのラウンドでは、敬語カードを使って、プレイヤーに質問をします。しかし、尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に使わないと、「あれ?!カード」を見せられることになるかもしれません。言葉遣いに気をつけて会話を楽しんでください。ラウンド終了時に、他のプレイヤーの口調や言い方で自分のロールを当てます。**協力型のゲームなので、全員が自分のロールを当てられるようにゲームを進めよう！**

コンポーネント

敬語カード（動詞カード） 20枚



ロールカード 9枚

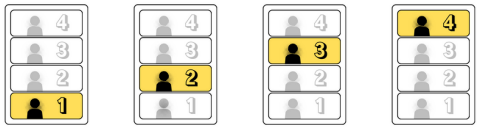


2枚　3枚　2枚　2枚

あれ?!カード 5枚



セットアップ



ロールは、1から4があります。
えらい人ほど数字が高いと考えます。たとえば、１より２の人、２より３の人がえらくなり、１番えらいのが４の人です。

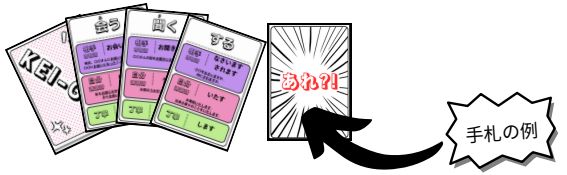
1. ロールカードは以下の表に従って使用してください。たとえば、プレイヤーが3人の場合は、ロールカード2・3・4を2枚ずつ使用します。

プレイヤーの人数	3人	4人	5人
ロールカードの枚数	4, 4, 3, 3, 2, 2	4, 4, 3, 3, 2, 2, 2	4, 4, 3, 3, 2, 2, 1, 1

2. 全てのロールカードを裏向きにしてよく混ぜます。そのあと、裏向きのままプレイヤーはロールカードを1枚ずつ取ります。手に取ったカードは、<u>自分には見えないようにしながら、ほかのプレイヤーには見えるように持ってください</u>。使用しない残りの3枚は裏向きのまま、真ん中に並べてください。

3. 敬語カードを３枚ずつ裏向きで配ってください。これをロールカードと一緒に手札にします。敬語カードは自分が見えるようにします。

4. [あれ...?]カードを１枚ずつ表向きで配る。プレイヤーの前、テーブルの上に置いておきます。



[追加ルール]シナリオを決めてください。例えば、会社や学校などで、場所を決めます。<u>出てきそうな人物とロールは結び付けないほうがいいです。</u>
例：**学校、会社、公園、コンビニ、研究会、宇宙船**

ラウンドの流れ

1. スタートプレイヤーをじゃんけんなどで決めてください。

2. 一人ずつ敬語カードを捨て札の置き場に出して、以下の順番で他のプレイヤーに質問をしてください。
※同じカードは２回以上利用できません。
- １周目：時計回りの人に質問をします。
- ２周目：反時計回りの人に質問をします。
- ３周目：スタートプレイヤーから、自由に誰にでも質問をします。質問されたら、質問する番になります。

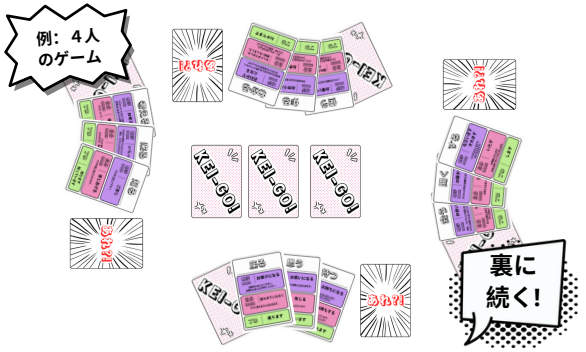
3. 相手に質問をする時は、相手のロールに気をつけて適切な言い方で聞いてください。例：
- 相手が自分よりロールが上（高い数字）だと思ったら、尊敬語や謙譲語を使いましょう。
- 相手が自分と同じロールかそれより下（低い数字）だと思ったら丁寧語やタメ口を使ってもいいでしょう。

<u>回答者</u>は、自分のロールを推理しながら回答しましょう。

4. 全員の敬語カードが場に捨てられたあと、自分のロールを当てます。

勝利条件

自分のロールの当て方は、指で示します。<例>ロール 1だと思ったら、人差し指を出す。せーのでみんなで指を出します。そして、ロールカードを公開します。全員が自分のロールを当てたら、大成功！敬語をマスターしましたね！



あれ?!カードを使う場合



他のプレイヤーが発言したとき、適切でない言葉遣いをしたとき、「あれ?!」カードを見せましょう。このカードは減点ではなく、みんなで勝利するためのヒントです！（イエローカードとして考えてください）。

⚠**逆のパターンでも使えます。**例えばロール４の人がロール１の人に対してすごく丁寧な敬語を使った場合に。とにかく、言い方がちょっと「あれ?!」と思ったら、[あれ?!]カードを使いましょう。

⚠ **ロールが同じの場合**
同じロール同士が会話するときは、「タメ口」でも「丁寧語」でも大丈夫です。身分が一緒なら敬語はいらないでしょう?!
しかし、シチュエーションによって、敬語を使うこともあるので、同じロール同士は一番「あれ?!」カードの使いにくい場合です。よく周りを見て、行動しましょう。

あれ?!カードを使わなくていい場合



動詞の早見表

あげる・もらう	いる	する	わかる
会う	作る	使う	座る
思う	持つ	来る	書く
用意する 持ってくる	聞く	行く	見る
言う	読む	買う	食べる

YORK GAME LAB

York Game Labは、明治大学政治経済学部のヨーク専任講師のゼミを拠点にしている研究室発のゲームデザイン団体です。ゲームと教育の融合を追求し、その未来を探求することを目的としています。

https://www.yorkgamelab.com

Special Thanks

KEI-GO! was made with love in Japan by James York with the help of the following people.

🎨 **Graphics**: Martin Sedaghat
禁 **Words/proofing**: Baku Ueda

🧪 **Playtesters**: Chubonga, Rivvi, Kuratius, Turt, Elzam, ゼミの1期生, Martin Sedaghat, Jonathan deHaan, Mark Johnson.

🎲 **ゲームデザインの友達**に色々なアドバイスをいただき、感謝しています。R. Ogishima (Monomelon), A. Toyama (Dig-a-doo).

👨‍👩‍👧 **My family**: Chigusa, Nina, Thom! xxx